

# 北海道浮魚ニュース

平成22(2010)年度15号

2010年9月1日

北海道立総合研究機構水産研究本部 函館水産試験場

ホームページ: [http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki\\_index.htm](http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki_index.htm)

## スルメイカ一斉調査結果(道南太平洋海域)

**道南太平洋の8月下旬のスルメイカ分布密度は過去5年と比較して低かった。魚体サイズは昨年及び過去5年平均に比べ小さい。**

函館水試調査船金星丸及び釧路水試調査船北辰丸で実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・調査期間: 8月19日~20日(金星丸)、2010年8月22日~25日(北辰丸)
- ・調査海域: 函館沖(金星丸)、浦河沖~下北半島東沖(北辰丸)

昨年(2009年8月17日~20日)及び過去5年(2005~2009年)のデータと比較しました。

なお、調査船3船体制への移行により今年度の調査は2船で分担して行いました。

### 1. 水温分布(図1、2)

漁獲調査点4地点の表面水温は19.5~24.9(昨年15.6~21.2)で、全地点で昨年より高く、特に浦河沖St.15(23.7)では昨年(15.6)を8以上上回りました。水深50m層の水温は6.9~21.0

(昨年8.4~17.6)で地点間の差が大きく、特に渡島太平洋側から胆振にかけての海域が低水温となっていました。全体として、渡島太平洋側から浦河沖にかけての海域で表面と水深50m層との水温の差が大きく、木直沖St.1及び浦河沖St.15で12を超える温度差が見られました。

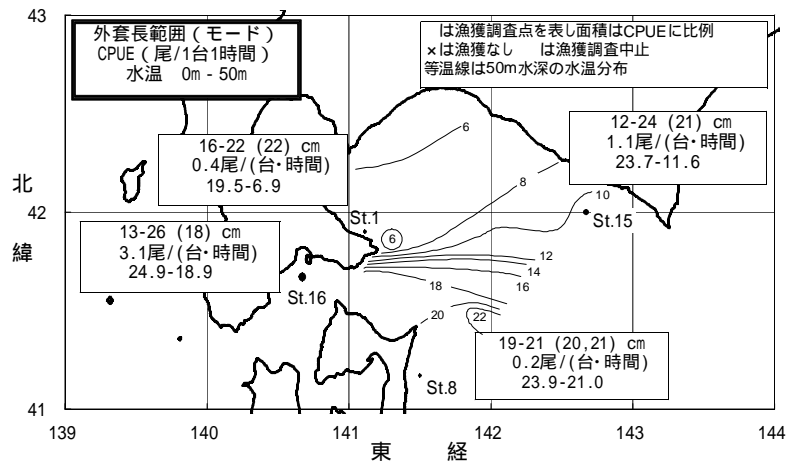


図1 2010年度の漁獲調査結果と水温(2010年8月19~25日、金星丸・北辰丸)

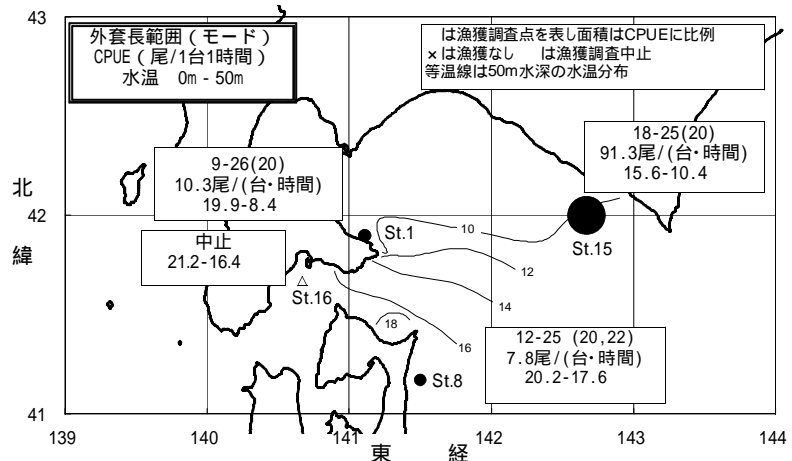


図2 2009年度の漁獲調査結果と水温(2009年8月17~20日、金星丸)

表1 スルメイカ漁場一斉調査（道南太平洋8月）のCPUEと外套長の経年変化

	2005(H17) 8/22-8/26	2006(H18) 8/21-8/25	2007(H19) 8/20-8/24	2008(H20) 8/18-8/22	2009(H21) 8/17-8/20	2010(H22) 8/19-8/25
St.1(木直沖)CPUE	3.4	4.7	-	0.8	10.3	0.4
St.8(下北半島東沖)CPUE	26.7	1.5	6.6	-	7.8	0.2
St.15(浦河沖)CPUE	23.5	2.6	-	30.7	91.3	1.1
St.16(函館沖)CPUE	-	4.6	1.7	-	-	3.1
平均CPUE(尾/台・時間)	17.9	3.4	4.2	15.8	36.5	1.2
外套長の範囲(cm)	15-26	12-26	16-29	15-23	9-26	12-26
外套長モードの範囲(cm)	19-20	20-21	21	19-20	20-22	18-21

## 2. 分布密度

漁獲調査地点4点のうち、函館沖St.16は金星丸、函館沖を除く3点は北辰丸により調査を行いました。CPUE(2連式イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数)の平均は1.2で昨年の平均(36.5)を大きく下回り、2005年以降で最も低い値となりました。各地点のCPUEも、函館沖St.16を除く全ての点で2005年以降で最も低い値となりました。(図1、表1)。

## 3. スルメイカの大きさ

スルメイカの外套長は、調査点全体で12~26cm(昨年9~26cm)の範囲にありました(図1、3、表1)。調査海域全体の外套長のモード(最も多く漁獲されたイカの大きさ)は18cmで、昨年及び過去5年平均(外套長モード20cm)に比べ小型でした。(図3)。

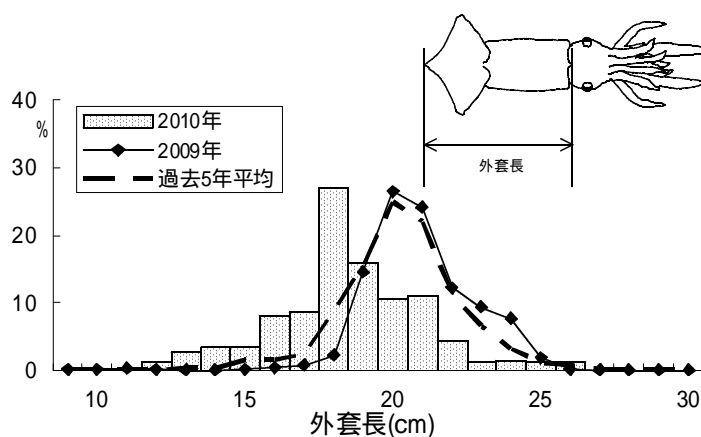


図3 調査海域全体のスルメイカ外套長組成

(文責：函館水産試験場調査研究部、TEL：0138-57-5997直通、FAX：0138-57-5991)